日本の防衛オピニオン　第19回　防衛問題特別取材班

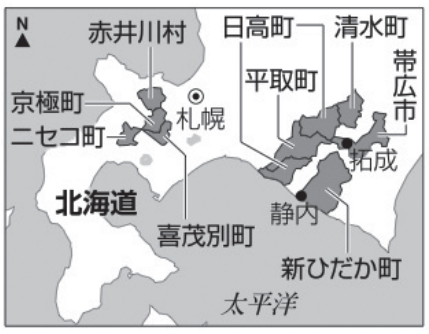
北海道に“侵攻”する中国に対応急げ

富良野でリゾート建設騒ぎ 中国買収に国は腰上げない

テレビドラマ「北の国から」で知られる北海道・富良野市。昨年秋、この国内有数の観光地でちょっとした”騒動”が持ち上がった。

北京の不動産会社が、南富良野から美瑛までを大規模開発してホテルや別荘、リゾート施設などを建設する計画を持ちかけたのだ。同市は、「大規模開発は農業に影響が出る」として、拒否したため、”騒動”は収まったが、計画の背後に元中国軍関係者の影が見え隠れしたという証言もあり、事情を知る道民は戦々恐々として推移を見守ったという。

不動産売買情報に詳しい帯広市の飲食店経営者は、「富良野市は拒否したからいいが、北海道では、山林を中心に、どんどん土地が買収されているという話を聞く。しかも、買収される広さも、何百ヘクタール



と年々、大きくなってきている。富良野だけではない。あり得ないこと、想像できないことが平然と行われていて、地方レベルでは対応できない規模になってきている。国に取り上げてもらわないと解決できないところまできているが、国は腰を上げようとしない。何か、大きな強い力が働いているのではないかと、勘ぐってしまう」と表情を曇らせる。

この飲食店経営者の危惧を象徴する事例は１つや２つではない。

札幌市街地から、札幌と道南地方を結ぶ大動脈、国道230号を喜茂別町に向かう。喜茂別までは約50kmぐらいだ。

25kmほど進むと札幌の奥座敷・定山渓温泉郷が広がる。札幌市民にとって馴染みの深い温泉街だが、最近は中国人観光客が席巻、温泉街の風貌は変わったという。

中国人プライベートゴルフ場 責任者分からず実態は藪の中

蝦夷（えぞ）富士と呼ばれる「羊蹄山」を望む中山峠を越えると喜茂別町。この町は、羊蹄山の麓に広がり、アイヌ語の「キム・オ・ペツ」（山・にある・川）が地名の由来で、名前通り、町の77％を森林が占め、喜茂別川など森林を源にした清流が流れる。重要な水源地でもある。

坂を下りきると、突然、国道沿いに中国語で書かれた看板が飛び込んでくる（写真下参照）。看板に誘われるように進むと「一達国際Private Golf倶楽部 これより先、私有地につき関係者以外立入禁止」の看板が立っていた。中国人による中国人のためのプライベートゴルフ場だ。

ゴルフ場は羊蹄山の麓に広がる丘陵地にあり、210ヘクタールはあるといわれる。山頂付近のクラブハウスからは、大きく迫る羊蹄山の迫力と風光明媚さに言葉を失う。

このゴルフ場は、元々はマンションディベロッパーのセザールが造成、平成13年に「セザールCC羊蹄」の名称で18ホールがオープンした。その後、コース名を「バーデンカントリークラブえぞ富士コース」と変更したが、15年に同社が破綻。その後、塩漬け状態になっていたのを、中国・北京の投資会社が買収した。買収後の運営は、札幌に拠点を置く、投資会社の現地法人が当たっているとされる。

複数の従業員の話を総合すると、コケだらけだったのを整備、２年ほど前からプレー出来るようになったが、100％、オーナーのプライベートゴルフ場で、プレーするのは、オーナーの知り合いの富裕層の中国人だけだという。昨年４月ごろからオーナーと親しい日本人が現地責任者として取り仕切っているが、オーナーは北京やドイツにいるため、顔を会わせるのは年に１回か2回で、面識はないという。中国人プレーヤーについても「どういう人が何人ぐらい来ているのか知らない。ゴルフ場の実態はオーナーと日本人責任者以外は分らない。詳細は聞かされていない」（男性従業員）。

従業員によると、今年５月下旬から一般客も受入れ始めたという。

「楽天」には、「羊蹄山、尻別峠を間近に望み、表情豊かな自然が美しい山岳地帯の戦略的なコースです」とアピール、6月1日を開場日として一般客の募集を始めている。

楽天のホームページには複数名でゴルフ場の感想を記しているが、従業員によると、カートは８台しかなく、オーナーは日本人観光客の誘致には積極的ではないという。あくまで、完全なプライベートゴルフ場で、クラブハウスもオーナーの別荘の様な作りだと口をそろえる。

当初、この投資会社は、プライベートゴルフ場を核とする会員制別荘地を造成し、アジアの富裕層に分譲する計画があったが、開発は進んでいないという。

新聞報道によると、日本人の現地責任者は「現在、別荘地の開発許可を申請中で、許

※写真＝東京ドーム70個分、約270ヘクタールの北海道の広大な大自然の国土が買収された。地元かは中国からの入植、集落作りが噂される。

可が出次第、開発を進める」と話しているが、一方で、喜茂別町によると、中国人オーナーは年に1度か2度、役場に顔を出す程度。「現地責任者とは面識はなく、だれが責任者なのか分らない状態」（町職員）だという。

結局、実態は藪の中という状態だ。

シンガポール企業が森林買収 270ha、何のため、実は中国？

このプライベートゴルフ場から、左手に蝦夷富士を見ながら、国道276号を北上、京極町から赤井川村に向かう。京極町は、羊蹄山に降った雨や雪の解け水が濾過され、地中のミネラルを加えながら流れ出る国内最大級の湧水「ふきだし湧水」で知られる。そんな湧水の町から赤井川村に入ると、国道393号沿いの白井川渓谷に広大な森林地帯が広がる。

この広大な森林地帯のうち東京ドーム70個分のエリアが、今年５月、シンガポール企業に買収された。

森林地帯は約1.5km続き、「DROMホテル・ドローム」「ドローム フィッシングエリア」などの看板が目につく。（写真上参照）

「ドローム キャンプ・フィッシング フィールド」。約270ヘクタールある森林内では、100張り以上のテントが設営でき、3つの釣り堀には傍を流れる白井川の支流が流れ込む。地元でジャムなどを製造・販売する会社が平成16年に「ホテル ドローム」を買収、その後、周辺にキャンプ場や釣り堀を整備して一大キャンプ・フィッシングエリアとして管理、運営していた。

そんな広大な地域を東南アジアやオーストラリアなどで不動産開発やレストラン経営を展開しているシンガポール企業の日本法人（札幌）が買収した。買収額は公表されていないが、日本法人はホテル経営を引き継ぎ、10年ほどかけて30億円程度を投資して、美術館の建設や別荘地の造成を計画しているという。現在釣り堀は営業しているが、ホテルとキャンプ場は閉鎖中で、営業開始の時期は未定だという。

釣り堀の従業員によると、地元の企業は、雇用の確保が難しいため手放したといい、今も同様に雇用の確保が難しく、全面オープンは来シーズンになるという。雇用の確保が難しいのは当初から分っているのに、なぜ、270ヘクタールもの森林地帯を買収したのか…そんな疑問が湧く。

オーナーについて、日本法人は「シンガポール人」と説明しているが、従業員は「会ったことはないが、たぶん中国人だと思う」と話している。

資源豊富な土地を大規模買収 中国から入植、村づくり可能

喜茂別町は、新千歳空港から車で約１時間半、赤井川村は約１時間だ。中国資本が当初、世界的な観光地、ニセコとその周辺に進出したのは周知の事実だが、地図を見ると、中国資本が手をつける地域は、ニセコを中心に、赤井川村、喜茂別町と放射線状に広がっているのがわかる。しかも、買収の単位が100ヘクタール単位と大きくなり、これまでのスポット買収から様相が大きく変化している。

地元住民は「買収された地域はすべて大切な水源や資源があるところばかり」と前置きした上で、「270ヘクタールもあるドロームは国道沿いの木を残して中だけを伐採すれば、外からは何も見えない。入口を閉めると、誰からも干渉されない閉鎖的なゾーンになる。大きな川も流れていて、その場で生活が出来る。閉鎖的な集落ができる可能性がある」と話す。

道民の多くは「買収に慣れてしまい、中国資本に買収されても驚かなくなってしまった」と話しながらも、「中国人の移民を受入れるような流れになっているが、そうした中国人が１ヵ所に住み着く可能性がある。アンタッチャブルな集落が出来る可能性が現実味を帯びてきた」といい、新たな不安がもたげている。

スポット買収は日常茶飯事 政治家に危機感はないのか

ニセコや赤井川村、喜茂別町のように大規模な買収が顕著になってきたが、スポット的な買収は相変わらず多い。日高山脈の麓で牧場を営む女性は「山の奥に行くと、こんなところに道があったんだと驚くことがある。奥には家はないはずなのに、色々な家が建っていて、誰が住んでいるのだろう…と。あの人は日本人？という感じの人もいる」と話し、中国資本が跋扈する北海道の現状に「子供の代になると、ここは日本か…という事態になりかねない。条例なんかは何の役にも立たない。国で何とかならないのか。日本の政治家には、日本の国が日本じゃなくなってしまうんだぞ…という危機感は無いのか」と声を荒げた。

かつて、亡命ウイグル人組織を束ねる「世界ウイグル会議」の関係者と対談したことがある前道議は、こう振り返る。

「『今の北海道は侵略される前のウイグルと似ている。中国人はじわりじわりと入って来て、コミュニティを作っていたが、あるとき、突然、手のひらを返したようにあそこの土地は自治区だと。その瞬間、それまでいい人だった隣人が豹変した』と話していたのを思い出す」

北海道の現実は例えれば、人の身体をむしばむガン細胞に似ていると言っても過言ではない。色々なところに少しずつガンが発生、それがいつしか増殖、気がつくと末期症状に。北海道も、今でこそ中国資本の進出ヵ所は点在しているが、気がつくと、オセロゲームのように一気に状況が変わってしまう危険性をはらんでいる。日本政府、そして日本人は尖閣諸島（沖縄県石垣市）周辺に中国漁船や公船が入ってくると敏感に反応するが、水面下で密かに進む経済“侵攻”には反応が鈍い。手遅れにならないうちに、効果的な対応が速やかに求められる。

※写真＝まるで中国に来たのかと錯覚しそうな看板。中国人による中国人のためのプライベートゴルフ場。実態は謎だらけだ。